

6月1日は「気象記念日」。明治8年(1875)のこの日、気象庁の前身である東京気象台が東京赤坂に設立されました。

日立における気象観測のはじまりは、明治38年(1905)12月に創業した日立鉱山の煙害対策と深い関わりがあります。

日立鉱山は3年後に本山から大雄院に製錬所が移転すると製錬鉱量が増加し、煙害地域が急速に拡大していきます。

このため鉱山は、煙の中の亜硫酸ガスを希釈させる手段を種々試みますが、煙の拡散は気象状態に大きく影響されることが明らかになり、大雄院事務所構内で小規模ながら気象観測をはじめました。

明治43年6月には、独立峰で周囲に障害物のない標高598mの神峰山山頂に気象観測所を建設、本格的な気象観測を開始しました。

東京気象台の設立から35年後、水戸測候所(現水戸地方気象台)設立から14年後のことです。



写真は、大正4年頃の神峰山観測所

【日鉱記念館提供】

当時の神峰山観測所は、風向・風速・気圧・気温・湿度等の自記機観測が中心で、観測員による観測は午前10時1回でしたが、銅生産量の増加と共に煙害が

拡大すると気象観測の重要性はますます高まり、観測所員も増員され観測も1日6回に強化されます。

この観測所は将来日立市に引き継がれ、日立市天気相談所の原点となります。

【6月の気象暦と季節予報】

▽ 1日 日立市天気相談所設立 (1952年)

▽ 6日 「芒種」(二十四節気)

▽ 8日 梅雨入り平年日(関東甲信)

▽ 22日 「夏至」(二十四節気)

▽ 28日 日降水量第一位 255.5mm (1966年：台風第4号)

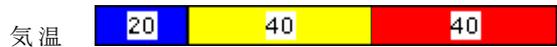
日立の気候表

	5月	6月	7月
平均気温	16.1℃	19.1℃	22.9℃
降水量	160.6mm	169.4mm	142.4mm
日照時間	174.8時間	114.7時間	136.2時間

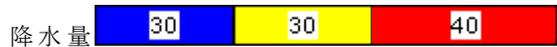
平年値(1971~2000年)

<関東甲信地方の出現確率%>

6月の気温は平年並みか高く、降水量は平年より多いと予想されています。



低い(少ない) 平年並 高い(多い)



※「日立の気象」の連載は、平成12年3月からはじまり今回通算100回目となりました。

日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~htenso>

ケーブルテレビ行政放送(5ch)でも定期的に天気予報をお知らせしています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP電話 050-5528-5066 へどうぞ。